

課外海外研修

Korea



China



CONTENTS

- 1 課外海外研修
- 2 海外研修旅行を終えて～韓国～
中国に行って
- 3 ウィンドサーフィン実習
- 4 射即人生!
野球部全国大会出場!
アーチェリー同好会始めました
- 5 がんばれライアーズ特訓中!
北信越学生柔道体重別選手権で3位
近未来越後長岡産業展・ロボット展へ出展

- 6 奨励賞受賞
若手優秀プレゼンテーション賞受賞
平成18年度学生奨励賞受賞
職業実習
- 7 佐潟環境共生プロジェクト
NIITオリジナルグッズ販売中
- 8 卒業生の職場を訪ねて⑩
- 9 先端技術研究会合同会社説明会
学習支援センター仮開設
教員父母連絡交流会を開催

- 10 平成18年度オープンキャンパス、全日程終了
大盛況!科学の祭典
- 11 ものづくりマイスター・カレッジが開講
平成18年度公開講座、全日程終了
- 12 新任教員のお知らせ
教員表彰
シンボルタワーガリフレッシュ
編集後記

海外研修旅行を終えて ～韓国～



機械制御システム工学科4年
平林 拓也
(長野県立更級農業高校出身)

9月4日(月)～9日(土)の日程で行われ、韓国の歴史、文化に触れ、良い経験ができました。韓国料理は辛い中でも甘みがあり食欲をそそられ、とても美味しかったです。また、日本と韓国の違いで驚いた事はソウル市の道がとても広いことです。また、韓国では徴兵制度があり、私達と同じ年の人が軍人となっていた事にも驚きました。今回の研修旅行では、日本と韓国の違いを見つけるのも楽しみの一つでした。

一日目は新潟から韓国ソウル市に行き、午後から景福宮、民族博物館、仁寺洞の見学をしました。景福宮はソウルの規模を誇る李朝時代の正宮であり、伝統的な建物に文化の違いを感じました。民族博物館では、朝鮮半島の歴史や伝統的衣装、キムチ作りの歴史などが詳しく展示されていて、とても勉強になりました。

二日目は板門店を視察しました。現在、北朝鮮の国際問題が騒がれている中でニュースなどでは感じる事ができない生の現状が見られました。板門店では韓国、北朝鮮との軍事境界線である38°線があり、互いの兵隊が睨み合い日本では考えられない緊張感に溢れていました。普段では、北朝鮮の兵隊は見られないらしいのですが、私達が訪問したときに、会議があり見る事ができました。今後南北が統一し、両国の兵隊が互いに手を取り合う日を願っています。



三日目は建国大学を訪問しました。韓国で5本の指に入る大学で、敷地の規模の大きさに驚き、教育に対する熱意を感じることができました。交流では英語と日本語が両方出来る学生達とコミュニケーションを取り、とても有意義な時間を過ごす事ができました。夕食では、建国大学の学長先生達と一緒に韓国の伝統料

理を頂きました。夕食後は建国大学の学生達にソウルの街を案内してもらい、ガイドさんが案内するソウルとは違うソウルを見られた気がします。

四日目はサムスン電子、韓国標準科学研究所を訪問しました。サムスン電子の歴史、過去の商品などを見学し、韓国ではITが発展しているため、IT家電などが多いことが印象的でした。韓国標準科学研究所では、メートル原器、グラム原器などが展示している場所を見学させてもらい、とても勉強になりました。



五日目は自由行動でロッテワールドに行きました。ロッテワールドでは高さ70mから急降下する乗り物、回転しながら振り子のように大きく揺れる乗り物などとても面白くストレス発散にもなりました。ロッテワールドはとある韓国ドラマの舞台にもなっており、撮影をした所などに行ってみると違った世界観も見えてきます。

六日目は南大門、ソウルタワーの見学をしました。南大門は食料品から衣類、雑貨まで揃うとても活気のある市場で、日本語も通じ価格も安かったです。ソウルタワーではソウルの街を一望でき、上から見るソウルのビルの多さ、高さに改めて感動しました。

今回の研修旅行は私にとって素晴らしい思い出になりました。また、建国大学の李先生、ガイドの李さん、寺島先生、事務の佐藤さん、研修旅行を支えてもらった数多くの皆様、そして一緒に旅行した皆様にとっても感謝しています。



【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060919_01.html
http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061026_02.html】

中国に行って



建築学科2年 佐藤 茂治
(新潟県立柏崎高校出身)

今回の中国への海外研修は訪問先の大学の関係で日程が早まり、8月23日(水)～8月30日(水)の8日間の日程で行ってきました。最初の4日間は首都北京に行き、残りの4日間はハルビン理工大学があるハルビンに行きました。

まず、北京に着くまでが大変でした。新潟からハルビンまでは順調に行けたのですが、ハルビンから北京に向かうのに天候が悪く出発が遅れてしまい、北京に着いたのは夜の11時過ぎでした。それからまた、ホテルまで移動もあったので部屋に入ったのは12時ちょっと前でした。これが研修旅行初日のことです。

2日目は定陵、七宝焼き見学、万里の長城(八達嶺)、お茶実演販売、雑技団公演鑑賞に行ってきました。中でも、良かったのは万里の長城と雑技団公演鑑賞です。万里の長城は男坂と女坂の2つに分かれており、男坂は道が急で傾斜が90度あるのではと思われる程で、女坂は男坂より急ではないけどそれなりに傾斜がありました。見学時間が1時間しかなかったのですが、頑張って両方登り切ろうと思い女坂は頂上と思われるところまで登ったのですが、残念ながら男坂のほうは頂上まで登れませんでした。だけど、ところどころで見た景色は最高にきれいでした。その後に行ったお茶実演販売では万里の長城

を登って疲れていたので中国のお茶を飲んで元気が出ました。その元気を保ちながら、雑技団公演鑑賞に行きました。獅子舞に扮した人の玉乗りから始まり、自転車の演技で終わったのですが、僕の中ですごいと思ったのは綱渡りアクロバットです。歩いて渡ったり、走って渡ったりして、最後には逆立ちしながら一輪車に乗って渡ったのにはビックリしました。



3日目は天安門広場、故宮、ショッピング(王府井)、足つぼマッサージ、京劇鑑賞に行ってきました。中でも良かったのは天安門広場と足つぼマッサージです。まず、

天安門広場では全国人民代表大会が行われる建物を見学しました。毛沢東の写真があり、教科書に載っていたとおりだと思いました。天安門広場は東西に500m、南北に800mあるので広すぎて歩き疲れましたが、生で見ることができて良かったです。足つぼマッサージではマッサージする人が簡単な日本語を喋ることができたので、マッサージしてもらいながら話ができて楽しかったです。

4日目はシルク工場見学、頤和園、北京市内見学に行ってきました。まず、シルク工場見学ではシルクは軽いですが、どんなにゲでパンチしても全然破れないのにはビックリしました。そこでシルクでできた服のファッションショーを見ました。ファッションショーを見るのは初めてだったので生で見られて良かったです。午後から行った北京市内見学でイーヨーカドーに行ってきました。中を見ると日本と一緒に上の階に行くほどお客はほんの少数しかいませんでした。その後、寝台列車で北京駅から12時間かけてハルビンに向かいました。僕は寝台列車に乗るのは初めてだったのでワクワクしながら乗ったのですが、22時に消灯だったのでワクワク気分はガタ落ちしました。

5日目はハルビンに到着。この研修旅行の目的であるハルビン理工大学に行ってきました。ハルビン理工大学は大変敷地

が広く、南区と西区に分かれており、大学の模型を見せてもらった時はあまりの大きさにビックリしました。夜はハルビン理工大学主催の歓迎パーティーに出席しました。向こうの学生と一緒に夕飯を食べながら話をしたりして盛り上がりました。

6日目はハルビ市内見学で太陽島公園、東北虎林園、松華江、スターリン公園を見学に行きました。太陽島公園の中にあった太陽島冰雪館と東北虎林園が特に良かったです。太陽島冰雪館の中は1月に行われた氷祭りが再現されていたので非常に寒かったのですが、その中にあった氷でできた建物の美しさに感動して寒さなんか吹っ飛んでしまいました。次の東北虎林園では生まれて初めてトラを見ました。トラは普段は静かなのですが、エサの時間になるとまるで戦争みたいにトラ同士でエサの捕り合いが始まって、見てて恐かったです。

7日目は午前中はハルビ市内見学で中央大街、索菲亞教会堂見学に行きました。中央大街という歩行者専用の通りで周りを見るとアジアなのに欧風の建物があつたのでビックリしました。索菲亞教会堂はロシアのソフィア教徒の建物で中には入れませんでしたが、見た感じは中世のヨーロッパみたいな感じでした。午後は休憩の後、本学主催の答礼パーティーを行いました。中国最終日の夜だったのでみんなで写真を撮ったり、アドレス交換などをしました。

8日目は朝5時に起きてホテルをチェックアウトしてハルビン空港に向かいました。あとはもうあっという間に日本に着きました。

最後になりましたが、一緒に旅行した皆様、海外研修を企画・運営してくださった方々、すべての方に感謝し、お礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060830_03.html
http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061026_01.html】

ウィンドサーフィン実習

今年で3回目となるウィンドサーフィン実習が8月28日(月)～30日(水)の3日間、柏崎市内の中央海岸で行われました。

ウィンドサーフィン実習に参加した五十嵐智史さんに感想を聞いてみました。



情報電子工学科1年 五十嵐 智史
(新潟県立新潟東工業高校出身)

私はマリンスポーツに挑戦してみようと思い、ウィンドサーフィン実習を選択しました。しかし、それまでウィンドサーフィンをただのサーフィンだと思っていました。

まず、マストの組み立てから始まり、陸の上で乗り方を教えてもらいました。そして、いざ海上で乗ってみると抵抗がなく、陸でやった以上に力が必要でした。腰や手が痛くなり、最初の2日間はなかなかまともに乗ることができませんでした。3日目は、生憎、雨が降りましたが、自分で思っている以上に風に乗って進むことができました。特に強い波や風がなく乗りやすい3日間だったと思います。



私は、この実習を通じて、ウィンドサーフィンは波や風の強さを考えて操作しなければならず、軽く考えていると上手に乗れないことを学びました。この実習は、滅多に経験できないことなのでいい体験になりました。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060830_02.html】

射即人生!

弓道部 部長

金澤 真美(物質生物システム工学科3年 私立新潟青陵高校出身)

弓道部は良い成績が残せるように柏崎市武道館にて日々練習に励んでおり、県内の大会に積極的に参加しています。他大学(長岡技術科学大学、新潟産業大学など)との交流も盛んで、合同合宿や合同記録会などを行っており、大学間で切磋琢磨し、大変刺激になっています。また、地域の方々や弓道連盟の方々とも親交が深く、毎回多くの事を学ばせていただいています。

これからも一生懸命に練習に励み心身ともに鍛えて、これまで以上に良い成績を残したいと思っています。

今年度の主な大会成績は以下のとおりです。

- | | | |
|------------------------------|------|----|
| ・ 柏崎市遠的大会 | 個人 | 4位 |
| ・ 県民スポーツの日弓道大会
(兼 国体一次予選) | 女子個人 | 4位 |
| ・ 県下弓道燕大会 | 男子団体 | 3位 |
| | 女子個人 | 4位 |



野球部全国大会出場!

本学の野球部が、新潟県大学軟式野球秋季リーグを9勝1分けて優勝し、11月14日(火)に始まった全国大会(東日本大学軟式野球選手権大会)へ新潟県代表として出場しました。初戦は栃木県の強豪白鷗大学と対戦しました。

野球部は、全日本大学軟式野球連盟に所属しており、新潟地区リーグ春季、秋季のリーグ戦に参加しています。

ピッチャーの吉田純章さん(機械制御システム工学科4年 新潟県立燕高校出身)に全国大会前の意気込みを伺いました。

「4年間やってきた練習の集大成として、全国大会に臨みたいと思います。1つでも多く勝てるように頑張ります。目指すは優勝です。」

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061102_01.html】



アーチェリー同好会始めました

アーチェリー同好会 キャプテン

阿部 泰之(機械制御システム工学科1年 新潟県立長岡工業高校出身)

今年度から新しくアーチェリー同好会を立ち上げました。まだ、できてたてホヤホヤのサークルですが日々練習に励み、大会で好成績を残せるよう頑張っています。

随時、メンバーを募集しております。少しでも興味のある人は毎週月、水、金曜日の16時~18時にテニスコート脇の芝生のところで練習していますので、気軽に見学にきてください。

今年度の大会の成績は以下のとおりです。

- | | | |
|--------------------------|-------|-----|
| ・ 総合体育祭 | | |
| 大学男子2部 | 田中 祐樹 | 優勝 |
| (情報電子工学科1年 新潟県立長岡工業高校出身) | | |
| 大学男子1部 | 阿部 泰之 | 準優勝 |

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061020_01.html】



がんばれライアーズ特訓中!

「ライアーズ」一見、本学とは関わりの無い名前ですが、実は在学生4人、卒業生3人に加え職員4人と職員OB1人が中心となって活動している軟式野球部です。大学の開学直後に結成したチームなので今年で12年目になります。

結成2年目から柏崎野球連盟に加盟しています。上のランクからA、B1、B2、Cの順となっており、現在はB2に属しています。

今季は全日程を終え、6大会で6勝5敗でした。連盟の試合はトーナメント形式のため、優勝か市代表にならない限り負けが必ず付くという状況の中で、今年は選手の頑張りで勝ち越せました。

写真は8月20日(日)に行われたB級地区選手権で優勝した時のものです。これからも楽しく、そして練習を重ねて上を目指しながらやっていきたいと思います。

【過去の主な成績】

「国民体育大会軟式野球競技会(一般B)」上越地区代表1回、「東日本軟式野球大会(2部)」柏崎市代表2回、B級地区選手権大会(2部)優勝1回

ライアーズ監督 宮崎 豊(事務局入試広報課)



北信越学生柔道体重別選手権で3位

10月29日(日)に長岡市民体育武道場で開催された北信越学生柔道連盟主催の第3回湊谷杯北信越学生柔道体重別選手権において、柔道部の佐藤武さん(情報電子工学科2年・新潟県立長岡工業高校出身)が見事66kg級で3位になりました。佐藤さんは、誰よりも一番多くの試合(5試合)を戦い、4勝をあげました。

大会の成績は以下のとおりです。

佐藤 武 66kg級 3位

清水 千翔 81kg級 準々決勝敗退

(情報電子工学科1年 新潟県立柿崎高校出身)

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061030_01.html】

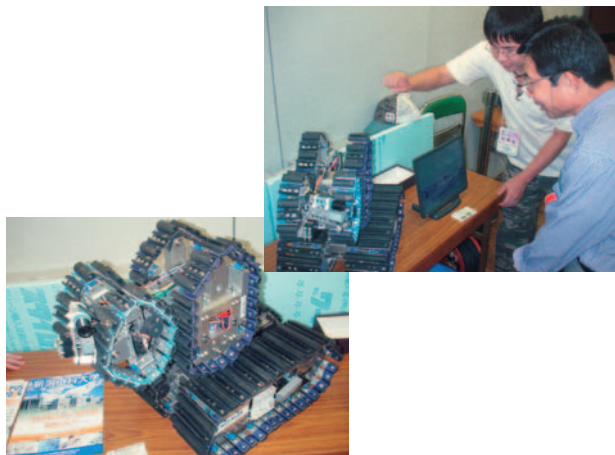


近未来越後長岡産業展・ロボット展へ出展

機械制御システム工学科の大金研究室が9月22日(金)～24日(日)の3日間、長岡市厚生会館で行われた近未来越後長岡産業展・ロボット展へレスキューロボットを出展しました。出展したレスキューロボットは、6月14日(水)～18日(日)にドイツで開催されたロボカップ世界大会 レスキューロボットリーグに出場したものです。

同展では展示の他、初日と最終日にデモンストレーションを行いました。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061003_03.html】



奨励賞受賞

大学院 自然・社会環境システム工学専攻2年の酒井悟さん(富山県立水橋高校出身)が、7月11日(火)～13日(木)に新潟市の朱鷺メッセで開催された日本コンクリート工学協会主催の年次論文大会で奨励賞を受賞しました。

論文のタイトルは、「超高強度コンクリート(150MPa)に定着したあと施行アンカーの支持耐力」でした。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060719_02.html〕



若手優秀プレゼンテーション賞受賞

大学院 自然・社会環境システム工学専攻1年の志田 貴之さん(新潟県立五泉高校出身:写真左)と同1年の田中 卓さん(新潟県立長岡向陵高校出身:写真右)が、7月9日(日)に福井大学で行われた「2006年 日本建築学会北陸支部大会」

でのプレゼンテーションが認められ、9月14日(木)に「若手プレゼンテーション賞」に選ばれました。

また、志田さんは「2006年日本建築学会」で「優秀卒業論文賞」も受賞しました。

プレゼンテーションの題名は、以下のとおりです。

志田貴之：CFDによる建物周辺の雪の飛散・堆積の数値予測に関する研究 Saltationモデル検討のための立方体周りの飛砂風洞実験及びCFD解析
田中 卓：人工超軽量骨材を用いた高強度コンクリートの圧縮特性に関する実験的研究

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060803_01.html〕



平成18年度学生奨励賞受賞

大学院 自然・社会環境システム工学専攻1年の高橋麦さん(新潟県立新潟工業高校出身)が、電子情報通信学会信越支部の平成18年度学生奨励賞を受賞し、9月30日(土)に電子情報通信学会信越支部大会で表彰されました。

論文のタイトルは、「情報伝送遅延補償機能を有した同報対話型ネットワークシステムの試作」でした。



職業実習

今年度も夏期休暇を利用した約2週間、3年生130人が産学交流会会員企業を中心とした80社で職業実習を行いました。3年生の53.9%(130人/241人)が職業実習を行い、「大学ランキング2007年版」(朝日新聞社)で職業実習体験者の割合で全国9位にランクインした昨年度を上回る結果となりました。

例年、職業実習終了後は各学科に分かれて職業実習報告会を実施しており、先陣をきって物質生物システム工学科が10月25日(水)に、情報電子工学科が11月1日(水)に実施しました。両学科とも3年生のほか、来年度に職業実習を控える2年生も報告会に出席し、先輩の話に熱心に耳を傾けていました。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060519_01.html〕



佐潟環境共生プロジェクト



コンペ初日は前夜祭として、夕日をバックにギターのミニコンサートが行われ、建築学科の飯野教授の娘さんと息子さん、途中教授自らも加わり誰もが聴き惚れる素晴らしい演奏を披露してくれました。

今年4月から建築学科3年生を中心に取り組んできたコンペ、佐潟環境共生プロジェクトの展示、投票審査会が7月25日(火)～27日(木)に現地佐潟で行われました。会場は佐潟が見渡せるハーブランドシーズン、参加チームは第一次審査を通過した計9チーム。最終日の審査会では、今回のコンペ主催者下條茂氏をはじめ、同氏が行っているホリスティック医療関係者の方々も参加して下さいました。コンペの結果、私たちのチーム“なちゅら”が最優秀賞を頂くことができたのですが、この場をお借りしてこの作品の紹介をさせていただきたいと思います。

この作品は「H+B+N→love,wish,dream」という作品で、人と鳥と自然の調和、そしてそこから生まれる愛や願い、夢をタイトルにのせてチーム皆で表現しました。人と自然の間には見えない壁があると思います。それを取り払うために何か共通点はないかと探してみると、木の枝分れの形と人の人生の枝分れの形が似ている点に気づきました。それをまず敷地内に木の枝の道として表現し、さらにその道先(枝先)に“実”という名の様々な自然体験スペースを設けました。これの意味合いはというと、人は歩んでいく方向によってどんな出会いや体験をするかが変わってくると思いますが、その出会いや体験も必ずその人の“身になる”を木の“実”に例え配置しました。このように、木の根元から空に続く枝先にまで、とことん木と人の人生を考え色んな仕組みを織り込み、この作品ができました。



佐潟での本選では、原寸に近い実の模型を造ろうという私の無茶な提案にも皆は力を貸してくれて、実現することができました。私はこの作品で一人でも多くの人が自然に優しく、そしてたくさんの出会いを大切にするというきっかけになれば、そしてその事自体がその人の“み”になってくれればと願います。

最後に、今回のコンペでは、どのチームも様々な視点から佐潟の可能性を見出していて、どのチームも夜遅くまで本当に頑張っていました。出来上がった全ての作品はどれも佐潟を生き生きと生まれ変わらせており、観に来た方々も、主催者の方も、先生でさえもわくわくを隠しきれずにいました。この学生達の熱意で、今後の佐潟や自然に対しての関心が深まる事を期待すると共に、今回の経験で一人一人が得たものもとても大きいと思います。

レポート 建築学科3年 清水靖子
(新潟県立見附高校出身)

NIITオリジナルグッズ販売中

今年からNIITオリジナルグッズに「NIITうちわ」と「NIITクリアボックス」が新しく加わりました。学生食堂脇の売店にてうちわを50円、クリアボックスを150円で販売しています。昨年、仲間入りした4色ロケットボールペン(100円)、タオルハンカチ(150円)をはじめ、クリアケース2色・4色(50円)、下敷き(50円)、マウスパッド(200円)、ドローバッグ(150円、200円)、トリプルペン青・白(300円)などのNIITオリジナルグッズも販売しています。

気になる人は売店で実際に手にとってみてください。



卒業生の職場を訪ねて⑩

株式会社 朋友

諸橋 巧さん

物質生物システム工学科
2004年3月卒業



諸橋さんは、2004年3月に本学物質生物システム工学科を卒業されました。現在は株式会社朋友に勤務されています。本来であれば、会社の方へ出向いてインタビューするのですが、共同研究の話で、諸橋さんが大学へ来たときにインタビューしました。

聞き手：それでは、インタビューに移りたいと思いますが、簡単に自己紹介をお願いします。

諸 橋：はい。私は、2004年の3月に卒業しました。研究室は竹園研究室で、卒業研究は酸素供給を目的としたマイクロカプセルの作製を行っていました。卒業後は、食品関連の会社に入社しましたが、いろいろありまして、現在は、株式会社朋友に勤務しています。

聞き手：そういえば、工場長をなさっているんですね。会社では何を作っているのですか？

諸 橋：はい。工場長は、なんとかこなしているというのが現状です。会社では、ヨウ素を用いて種々の殺菌抗菌関連のものを作っています。会社の歴史もそれほど古いわけではありませんので、これからさらに商品開発を行っていかねばいけないと考えています。商品の効果についてももっと科学的なデータを蓄積していく必要も感じています。そこで、いきなりすべての設備を整える訳にはいかないので、大学と共同研究出来ればと思っています。在学中は、殺菌などについてそれ程深く学んでいなかったのでもっと大変ですが、たまに工科大学の図書館に來たり、インターネットでいろいろと調べているうちに、今は、大変面白い分野だと思っています。今、思うと学生時代にもっと勉強しておくべきでした。

聞き手：私自身もそうと思いますが、皆、そういう後悔はあると思いますよ。ところで、本学は県内企業から多大な支援をいただいていますから有効に活用した方が良いでしょう。

諸 橋：そう言っていただけると助かります。私の場合は、卒業してそんなに時間も経っていませんから、竹園先生を始め直接講義を受けた先生方がいらっしゃるのです、大学へ来るのには抵抗はありませんでした。図書館も有効に活用させてもらっています。

聞き手：ちょっと研究の話に戻ってしまいますが、今回の共同研究は結構奥が深いと思うので、大学院の社会人入学なんていうのも会社の方と相談してみてもいかがですか？大学としては、卒業生が会社のテーマで大学院生として研究するのは大歓迎ですよ。たしか授業料も安くなるはずです。

諸 橋：わかりました。実際自分で実験してみないとイメージがわからないこともありますし、早速、社長と相談してみます。

聞き手：共同研究については、先ほど話した手順で進めていきましょう。今日は遅くまでありがとうございます。これからも頑張ってください。

このインタビューの後、諸橋さんとは結婚されたとのこと。ご結婚おめでとうございます。

(聞き手：物質生物システム工学科 助教授 小野寺 正幸)



先端技術研究会合同会社説明会

新潟県内の研究開発型企業で構成する先端技術研究会(会長:金突武正・山勝電子工業(株)社長)主催の合同会社説明会が9月20日(水)、本学学生を対象に学内で開催されました。

この説明会は、同会会員企業64社のうち、来春卒業・修了予定の学生の採用を計画する企業16社が参加して行われたもので、出席した学生たちは各企業の人事担当者から会社概要の説明を受け、仕事内容などについて積極的に質問していました。主催者の一人は「2月の会社説明会のときよりも学生が熱心で、各社とも良い印象を受けた。来年度は就職活動中の学生が多い、6月などの早い時期に開催したい」と手ごたえを感じた様子でした。

先端技術研究会は昭和58年9月、全国の異業種グループや経営者との交流を目的に設立されましたが、本学設立においては礎となり、開学後も卒業生の採用や共同研究などを通

じて本学とは太いパイプでつながれています。

今年度の本学の就職内定率は、好調だった昨年と同様に推移しています。「就職に強い新潟工科大学」にとって、同会は心強い存在となっています。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060920_01.html]



学習支援センター仮開設

9月より、学生のために学習支援センターを仮開設しました。

日頃の学生生活の中で、学習について相談したいことや思い悩むことなどありませんか？

センターには化学、数学、物理を担当する3人の先生がいます。高校で学習していないところ、授業で分からないところ、勉強の仕方がわからないなど、学生の皆さんの学習に関する相談を受け付けています。今更人に聞けないような簡単な質問でも構いません。分からないところをそのままにしておかないで、

一緒に解決していきましょう!そして、あなたのキャンパスライフを充実したものにしていきましょう!

どうぞ気軽にご相談ください。

- ・設置場所：大学院棟 1 階入口そば
- ・受付時間：月～金 9時～17時30分
- ・学習相談：月～金 9時～17時30分
- ・個別指導：

科 目	時 間	
数 学	月曜日	15時～17時30分
	水、金曜日	13時～17時30分
物 理	月、水、金曜日	13時～17時30分
化 学	月～金曜日	9時～17時30分

※その他(英語など)は、個別指導する先生を紹介します。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061013_01.html]



教員父母連絡交流会を開催

平成18年度教員父母連絡交流会が9月2日(土)に開催されました。今年度は約300名のご父母からご出席いただきました。

同会は、学生の保護者を会員とする「新潟工科大学後援会」の主催で毎年1回開催されているもので、学科ごとに実施する学科別連絡交流会と全体会の2部構成となっています。学科別連絡交流会で個別面談が行われ、前期成績表を基に教員が大学での生活ぶりなどを伝えました。また、全体会の特別講演では、新潟大学保健管理センターの七里佳代様を講師に迎え、「大学生のメンタルヘルス」についてお話いただきました。

このような交流会を実施している大学は全国でも少なく、きめ細やかな教育を掲げる本学を象徴する行事となっています。今後も大学と父母との関係をより密接にしていけるよう努力し

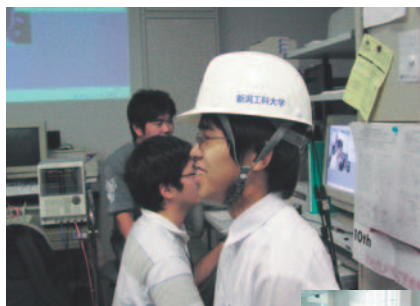
ていきたいと思っています。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060902_01.html]



平成18年度オープンキャンパス、全日程終了

第2回目のオープンキャンパスが9月30日(土)に開催され、今年度のオープンキャンパスは全日程を終了しました。7月22日(土)に実施した第1回目には144名、今回の第2回目には138名の生徒やご父母にご参加いただきました。



当日は県内各地(新潟、長岡、直江津、柏崎)から無料送迎バスを運行したほか、第1回目は高崎、長野からも運行し、隣接県からも多くの参加者が集まりました。なかには2回とも参加した熱心な生徒もいるなど、本学への関心の高さがうかがえました。

参加者は午前中に大学概要説明、入試説明を聞き、学食での昼食をはさんで午後から希望の学科での模擬実験を体験したほか、志望学科の決まっていない生徒やご父母は学内を見学してまわりました。

また、本学の学生たちもオープンキャンパスにスタッフとして積極的に参加し、模擬実験の補助、受付、誘導、相談コーナー等で奮闘していました。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061003_01.html]

大盛況!科学の祭典

今年度2回目の「青少年のための科学の祭典 柏崎刈羽大会」(柏崎市立教育センター主催)が、9月30日(土)に第2回オープンキャンパスと並行して開催されました。開場と同時に多くの親子連れが訪れ、来場者数約1,200人という大盛況振りでした。この催しには本学の学生も多数参加し、「いろいろイクトラボトル」や「クイズで知ろう柏崎」など多数の出展ブースで子ども達の指導にあたりました。

[関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061003_02.html]



ものづくりマイスター・カレッジが開講

9月6日(水)から柏崎技術開発振興協会主催の平成18年度ものづくりマイスター・カレッジ(開講期間:平成19年8月29日まで)が本学を会場に開講しました。初日には開講式が行われ、会田洋柏崎市長からもご祝辞をいただきました。

同事業は、柏崎商工会議所と市、地元工業界でつくる柏崎技術開発振興協会の基盤技術継承支援事業の一環として開催されたもので、産学官で地元機械金属産業界の将来のものづくりを担う若手人材の育成とレベルの向上を図るものです。

NC旋盤コース、NCフライス盤コース、知識習得コースの3コースを設け、本学と柏崎工業高等学校の教員が座学の講師を務め、市内事業所の熟練技能士がNC旋盤とNCフライス盤の実技を指導しています。

【関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060906_01.html】



平成18年度公開講座、全日程終了

平成18年度公開講座は技術講座、教養講座とも全日程を終了しました。

技術講座・講義編については昨年と同様、今年度も新潟県立看護大学と提携して実施しました。同大学から吉山直樹教授、中野正春教授、柿川房子教授を講師としてお迎えしたほか、同大学の公開講座「スロー・エイジングへの挑戦」に本学の教員3名が講師として出向き相互協力をはかりました。

また、技術講座・実験編は、前期・後期の二本立てで建築系と情報系の内容を実施しました。

来年度も本学の公開講座をよろしくお願いいたします。

各講座のテーマと受講者数、規定の回数を受講した修了者数は次のとおりでした。

★技術講座・実験編(建築系)「建物の強さと風環境を学ぶ」
講師：富永 禎秀 教授、穂積 秀雄 教授、
地濃 茂雄 教授、中野 克彦 助教授
6月1日～6月22日(全4回) 本学 建築環境・構造物実験室
受講者：13名 修了者：11名



★教養講座「アメリカ文学・散歩道 ～時代を生きた女たち～」

講師：半藤 正夫 教授

6月13日～7月18日(全5回) 柏崎エネルギーホール

受講者：23名 修了者：17名

★技術講座・実験編(情報系)「パソコンを作りあげよう」

講師：角山 正博 教授、渡邊 壮一 助教授、

伊藤 建一 助教授、佐藤 栄一 助教授

8月22日～9月1日(全5回) 本学 情報電子第1学生実験室

受講者：23名 修了者：23名

★技術講座・講義編「健やかな暮らしのために」

ー新潟県立看護大学との提携プログラムー

講師：斎藤 英一 教授、飯野 秋成 教授、

寺島 正二郎 助教授

新潟県立看護大学 吉山 直樹 教授、

中野 正春 教授、柿川 房子 教授

9月21日～10月26日(全6回) 本学 S1大講義室

受講者：42名 修了者：29名

【関連URL http://www.niit.ac.jp/kouza/kouza_index.html
http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060622_02.html
http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060922_02.html】



新任教員のお知らせ



建築学科 助教授

田口 太郎 『博士(工学)』

- 専門：都市計画、まちづくり
- 研究テーマ：自律的まちづくりのプロセスデザイン
- 出身高校：私立逗子開成高等学校
- 学歴：早稲田大学理工学部建築学科、早稲田大学大学院博士課程
- 経歴：小田原市政策総合研究所特定研究員、早稲田大学助手を経て平成18年本学助教授就任。
InBetween International Design Project, Award Winner(Germany)、早稲田大学小野梓記念賞(芸術賞)。

- 趣味：水泳、水球、写真、自立建設、料理、旅行、酒
- コメント：10月からこちらに参りました。専門は都市計画・地域づくりです。

都市計画で扱う範囲は基盤整備計画にとどまらず、公共政策に至るまでより広い範囲を総合的に扱うようになりました。というのも昨今の地方分権の進展により、これからはより自律的な地域づくりを進めていくことが重要となったからです。そのためには公共的な仕事を行政に頼り切らずに、市民と行政、NPOなどの担い手によって、役割の相互補完を図りながら進めていく必要があります。

この柏崎の周辺にも課題を抱えた地域が多くありますが、これらの地域と積極的に関わりながら地域づくりの支援を学生の皆さんと共に進めていきたいと考えています。

宜しく願いいたします。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061002_01.html〕

教員表彰

日本建築学会技術設計競技アイデアコンペで優秀賞を受賞

建築学科の深澤大輔教授が、2006年度日本建築学会技術部門設計競技アイデアコンペ「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画」で優秀賞を受賞しました。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060804_03.html〕

VAFSEP2006でAward for The Best Presentationを受賞

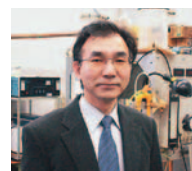
機械制御システム工学科の吉本康文教授がアイルランドのダブリンで開催された国際会議：VAFSEP2006(Vehicles Alternative Fuel Systems & Environmental Protection)でAward for The Best Presentationを受賞しました。発表論文名は「Performance of a Diesel Engine Fueled by Methyl Oleate and the Characteristics of Combustion of Single Droplets of Methyl Oleate」(吉本康文、小野寺正幸 共著)でした。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060912_01.html〕

中小企業庁長官特別賞を受賞

機械制御システム工学科の中嶋新一教授が財団法人にいがた産業創造機構などと共同開発し、昨年の愛・地球博にも出展した自律運行型除雪ロボット「ゆき太郎」が、日本産業デザイン振興会の2006年度グッドデザイン賞で、中小企業庁長官特別賞(新領域デザイン部門)を受賞しました。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20061005_01.html〕



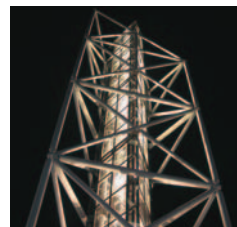
シンボルタワーがリフレッシュ

夏期休暇を利用して、シンボルタワーのメンテナンスを行いました。外側の鉄骨(トラス)の塗装とガラス補修及び目地のシール打ち、さらに避雷針を再設置しました。

装い新たに9月21日～10月26日の期間、木曜日の公開講座に合わせて午後6時から9時までライトアップしました。

【シンボルタワー豆知識】 高さは33mのタワーで、4学科を象徴する機能とデザインは、まさに本学の“シンボル”的存在です。

〔関連URL http://www.niit.ac.jp/topics/2006/20060921_03.html〕



編集後記

平成20年3月に完成予定の福利厚生棟が実施設計の段階に入りました。学生提案のガラス貼り吹き抜け空間は、地域開放を謳う本学ならではのイキな設計ですが、快適さの確保はなかなか難しい。設計した学生に責任を取ってもらうべく(笑)、連日環境シミュレーションをやってもらっています。はたしてシミュレーションどおりになるのか?出来上がるのがとてもとても楽しみv(^ ^)(A.I.)

発行

新潟工科大学広報誌 第11号
平成18年11月20日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719番地
TEL.0257-22-8111 (代表)
FAX.0257-22-8112
E-mail:soumu@adm.niit.ac.jp
URL:<http://www.niit.ac.jp>